

「笠利中学校の八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立笠利中学校

2 学年・人数

中学1年生から3年生（計39人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時（場所）

平成27年9月12日（土） 本校体育館

(2) 発表の日時（場所）

平成27年9月27日（日） 本校校庭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称：大笠利八月踊り（おおがさはちがつおどり）

(2) 由来

起源は定かではないが、按司の世（約700年前）からあったのではないかとされている。旧暦の8月を「新年」ととらえ「アラセツ（新節）」「シバサシ（柴挿し）」「ドンガ（嫩芽）」といった新年の行事で踊られてきた八月踊り。豊かな実りに感謝し、来年の豊作を願う「祝付け」の踊りである。

(3) 構成等

男衆と女衆のそれぞれの「唄出し」と「太鼓（チヂン）」から輪を描く。太鼓（チヂン）を叩くのは、ほとんどが女衆。そのリズムに乗り、男女が島唄を交互に唄いながら八月踊りを踊る。テンポは最初はゆっくり、だんだん早くなって、最後は手足がもつれるほどに盛り上がる。そして、八月踊りの最後は、六調（ろくちょう）で締めくくる。

5 保存会や地域との連携の具体

体育大会で発表の場を設定し、ネリヤ（総合的な学習の時間）で練習を行っている。輪番制で大笠利の3集落（城前田、里前、金久）が担当し、老人会を中心とした集落の方々の指導の下、島唄と八月踊りを伝承している。体育大会では、生徒・職員・保護者・地域の方々が、みんなで輪になって唄い、踊っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携・協力しながら八月踊りを伝承していくために、学校（担当）と地域（区長）の連絡を密に行っている。また、学校で八月踊りを発表（体育大会）するだけでなく、地域で行われる旧暦8月9～11日の「アラセツ（新節）」と15～17日の「シバサシ（柴挿し）」にも積極的に参加している。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【ネリヤの練習風景】



【体育大会における発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- アラセツ・シバサシでは，地域の方の踊りを見ながらなんとなく踊っていたけれど，ちゃんと教えていただいたので，これからは，もっと積極的に参加したいです。（生徒から）
- 私は，シマを離れて初めて，シマのすごさ，大切さを知りましたが，子どもたちは，八月踊りを習うことで，今，実感することができたと思います。（保護者から）
- 素直に聞く子どもたちに教えるのは，とても楽しかったです。（地域の方から）
- 赴任してから戸惑うこともたくさんありましたが，八月踊りを通して，奄美の素晴らしさが分かった気がします。（職員から）